

森よ育て減らせCO₂

坂東の「岩井化成」

企業が排出した二酸化炭素(CO₂)を吸収する「ダイレクトカーボンオフセット」の森づくりを推進するため、坂東市馬立南台の合成樹脂再生加工会社「岩井化成」(清水弘社長)は二十六日、石岡市柴内の民有林で植樹祭を開いた。

地球温暖化対策として、企業が独自にCO₂を吸収する森づくりに取り組むのは県内で初めて。風人茨城環境力ウソセリング協会による森林認証「風人の森」取得第一号を目指して事業展開



石岡で植樹 県の認証目指す

CO₂削減の森づくりを目指し行われた植樹祭＝石岡市柴内の山林

を図る。

岩井化成は、農業用ハウスなど使用済みの農ホリをリサイクルしてごみ袋やレジ袋を生産販売する企業。今回、ごみ袋などを製造する時に発生するCO₂の排出量を算出し、その排出したCO₂を吸収する森づくりのために植樹祭を開いた。

カーボンオフセットは、海外の植林事業や風力発電を対象にCO₂の排出量に見合った資金を出すのが主流だが、同社では植林によって直接的にCO₂削減を図るダイレクトカーボンオフセットを実施。石岡市内(旧八郷町)の民有林を「清風の森」として森づくりを始めることにした。

同日は、植樹祭に先立って朝日里山学校で、清水社長、横田凱夫市長、つくばね森林組合の木崎真組合長、土地所有者の関昭氏が出席。森林保全活動に関する協定や森林の管理委託、借地契約などの調印がそれぞれ行われた。調印後、清水社長はあいさつで「毎年植林を続け、五年以内に自社が排出するすべてのCO₂を吸収する森にした」と述べた。

植樹祭には朝日里山学校から約二百離れた山中で、同社の社員や坂東市内の福祉施設の入所者ら約八十人が参加。約一畝の用地にナラノキ千五百本、サクラ八十本を植えた。

(塚本宣夫)